



エネルギー伝道者として 国の将来見据えた選択訴える



関口美奈
リゾナンシア
代表

せきぐち・みな
大学卒業後、テキサス州立アー
リントン校大学院でMBAを取
得。2012年からKPMG Japan
および同アジア・パシフィック
地域でエネルギー・インフラ
ストラクチャー統括責任者。22
年、リゾナンシアを設立した。

バブル崩壊後、不良債権売却が始まる直前
に米国から帰国した私は、いきなり日本経済
の緊縮の波に放りこまれた。アーサー・アン
ダーセン（現KPMG）というコンサル会社
の米ダラスから東京に転勤直後、不良債権の
買い手が外資ファンドであったため、英語要
員として不良債権売却支援チームにアサイン
された。日本の会計規則も知らなかった私は、

11年の東日本大震災による原子力発電所事故
で資金を費した同社は、持ち分の半分を費用
通算に譲渡。その後費用通算は徐々に持ち分
を増やし、22年完全子会社化した。ユーラス
はかつては日本有数の再エネ電力事業者だ。
自由化を機に国内ニーズを生じる

を10年超務めた後、独立した。私自身は、エ
ネルギーについて専門的に勉強したことはな
い。エネルギーの知識はすべて業務を通じて学
んだ。そんな私がいままたエネルギーに関わ
り価値創出ができるのかと自問する。エネル
ギー・電力は生活に不可欠であるが、あまり
深く理解されていない。政治に任せればどう
にかしてくれるのだろうか。多くの人々に自
分の使うエネルギー・電力をもう少しだけ知
り、この国の将来に向けて何を意識すべき
か考えてほしいという思いが募る。エネルギー
1員国に移り、いくつもの悲劇を経験した
私達が客観的、合理的にこの問題に向き合う
ことは、それ自体が大きな試練かもしれない。

時価評価の不良債権評価はありがたかったが、
今ではあり得ない残業や休日返上が続いた。
ほどなくしてエネルギーに出る機会がや
つてきた。バブル期の不動産投資で財政危機
に陥った同社の風力発電事業に関するM&A
案件に携わったのだ。その頃は再生可能エネ
ルギーに関する世間の認知は低く、事業価値
を正しく認識できる買い手も多くはなかった。

08年、リーマンショック後に投資家は変動
幅が大きい株式市場を敬遠。行き場を失った
資金が余っていた。そんな投資家に、欧州で
始まった再エネブームへの意欲を探ったこと
ろ、長期安定かつ将来的な高リターン再エネに
強い関心を示された。グローバルネットワーク
を活用し、海外の再エネ投資に力を入れた。

そんな頃に震災が起き、自由化に向かう国内
市場に新たなコンサルニーズが生まれたこと
をきっかけに、KPMG社内でエネルギーセ
クター事業を立ち上げ、セクター統括責任者

が、社名をユーラスエナジーと変更した。が、

そんな頃に震災が起き、自由化に向かう国内
市場に新たなコンサルニーズが生まれたこと
をきっかけに、KPMG社内でエネルギーセ
クター事業を立ち上げ、セクター統括責任者

も専門家でない私は、エネルギー・エバンジ
エリストとして業界の来し方行く末を俯瞰し、
感情的でないストーリーを語っていきたい。

次回は、マトリクスKの近藤寛子代表です。